

平成29年度(2017年度)セタシジミ資源概況調査

井戸本純一

1. 目的

近年、セタシジミの漁獲量は100トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、1997年から産卵期にあたる5～7月の禁漁期間中に実際の漁具を用いて調査を行っている。

2. 方法

2017年5月20日および21日に琵琶湖北湖一円の主要7漁場を含む16漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網（開口幅168cm、網目3cm）を用いて調査した。各漁場内の調査場所は原則として過年度を踏襲し、必要に応じて別場所でも実施した。1か所につき1分間ないし2分間曳網し、採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。GPSの軌跡記録から曳網面積を求め、単位面積あたりの採捕数を計算し、資源密度とした。

3. 結果

資源密度は、全漁場の平均では前年の0.33個体/m²から0.87個体/m²に増加した(表1)。主要漁場の資源密度は平均0.34個体/m²から0.96個体/m²に増加し、漁場別では松原、今西で増加幅が大きかった(図1)。体型別の推移をみると、殻長18mm以上の密度が平均0.11個体/m²から0.18個体/m²への増加にとどまったのに対して殻長18mm未満はすべての漁場で増加し、平均では0.23個体/m²から0.78個体/m²へと大幅に増加した(図2)。

小型の資源が全湖的に増加した原因として、2014年の産卵期における親貝の肥満度が高く、この年の産卵量の増加によって3年貝の加入量が増えたことが考えられた。

表1 2017年禁漁期における琵琶湖北湖一円の漁場別資源密度

漁場	採集数	曳網面積(m ²)	密度(個/m ²)
菖蒲	120	161	0.74
牧	220	528	0.42
沖島南西※	95	262	0.36
沖島西※*	750	811	0.92
沖島東※	164	198	0.83
新海	119	553	0.22
石寺	398	509	0.78
松原※*	1368	931	1.62
磯※*	904	958	0.96
長浜※*	518	969	0.53
今西※*	1320	864	1.50
海津	61	225	0.27
針江	156	163	0.96
高島	859	269	3.20
鴨川	59	220	0.27
近江舞子	81	294	0.28
平均			0.87

※主要漁場 *2か所の合計(密度は2か所の平均)

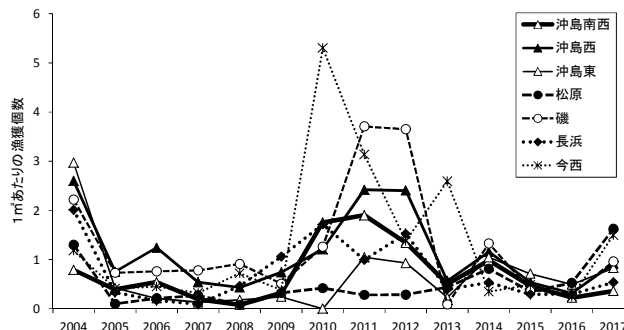


図1 各主要漁場における資源密度の推移。

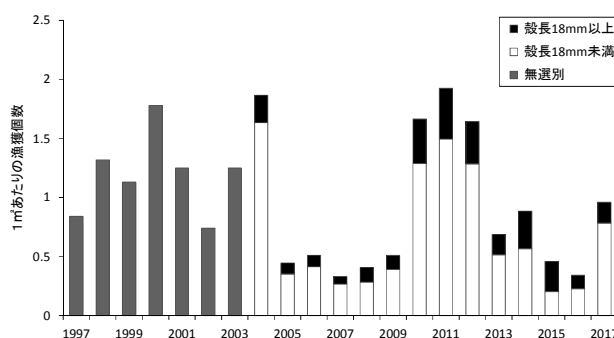


図2 主要7漁場における平均資源密度とサイズ別内訳の推移。

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。